

## 2 アテ遺伝資源調査と育種に関する研究（第1報）

予算区分：県 単  
担当科名：生物資源科

研究期間：平成 13～17 年度  
担当者名：三浦 進  
八神 徳彦  
松元 浩

### ・目的

これまでにアテの材質育種を行い、ねじれや入り皮が少なく、強度性能の優れたクローンの選抜を行ってきた。この個体を元に、優良アテ苗を生産していくため、さし穂の効率的な生産方法として、採穂台木の誘導法を検討する。また、アテ漏脂病抵抗性クローンの検定手法の開発にあたり、同一林分内に見られた漏脂病罹病、非罹病個体間での遺伝的差異の有無を検討する。

### ・試験内容

#### （1）採穂台木の誘導法

昨年度に引き続き、10年生個体を用いて採穂台木の樹形誘導ならびにさし穂生産量の調査を行った。

#### （2）漏脂病抵抗性アテ育種の検討

穴水町長山のアテ漏脂病激害2林分から、健全木21個体、罹病木22個体から樹皮サンプルの採取を行い、このサンプルをもとにDNAの抽出を行った。また、漏脂病罹病、非罹病個体間での遺伝的差異の有無を検討する手段として、迅速かつ簡便なRAPD法を採用し、クローン識別が十分に可能なプライマーの探索を行った。

### ・試験結果

#### （1）採穂台木の誘導法

今年度のさし穂（全長40cm）採穂本数は1台木あたり平均21本であった。また、新規に枝化した側枝は17本であった。

#### （2）漏脂病抵抗性アテ育種の検討

クローン識別が可能なプライマーの探索の結果、43個体は5種類のプライマーから7つのRAPDマーカールを見出すことができた。

### ・今後の課題

さし穂の生産性の経年変化を調査するとともに、今回見出されたRAPDマーカールを用い、アテ漏脂病罹病、非罹病個体間での遺伝的差異の有無を明らかにしていく。